

活動完了報告

「山本英 フルトリサイタル」活動助成

(氏名) 山本英

《報告および成果》

【事業の達成率】

本公演は、キーワードに「クロスオーバー」を掲げ、非日常へと誘う能楽堂と、フルートによる音響空間との融合を目指した。これにより、聴衆と奏者・双方に新たな方向性を提供し、音楽そのものの魅力を探求する場にすることを目的とした。

会場に選んだ能楽堂は、「三間四方」の舞台構造をもち、成立は600年前の室町時代まで遡る。狂言や能楽はもちろん、近年ではジャンル問わずさまざまな舞台芸術の発表の場としても注目されている。

このシンプルかつ特別な舞台構造は、芸術性をさらに高める土壌となり、本公演のテーマである「クロスオーバー」に相応しいと判断し、双方の芸術の発展・領域拡大に寄与することを目的に、本会場で事業を実施した。

今回力を入れた「客層」については、単なる「音楽ファン」だけでなく、さまざまな層を獲得することを目指した。1日2公演それぞれ「色々な音楽のフィールドを自由に行き来する音楽家」を1名ずつ招き、その結果、若年層から高齢者までの幅広い世代や業種の客層を獲得することができた。

また、ゲストのみならず、AKIRANAKAからの衣装提供や、広告デザインにおいて他のアート業界で活躍している方々とのコラボ、公演への応援メッセージ(詩人や俳優、音楽家などから寄せられたもの)をサイトにて配信するなど、多方面から他業界の客層も多く獲得した。

プログラムについては、山本自身にとって初の自主開催とのこともあり、日本初演の作品も含め、普段のフルトリサイタルでは見られないような意欲的な曲で構成した。個人主催としては、用意する楽器ややりとりの規模がかなり大きいものだったが、少人数の制作体制ながらも、山本自身の采配により企画を最後までまとめ上げることができた。この経験を通じて、今求められている「自己プロデュース力」も身についたと考える。

《今後の課題》

今後も、フルートの可能性を広げるような公演を継続的に企画していきたいと考えている。次回以降は、今回のように新たなレパートリーの発掘を行ったり、全曲を新作で構成するプログラムにも挑戦したい。

また今回は、一般的なコンサートホールではなく能楽堂という会場を選んだことで、両芸術の発展や領域の拡張にも寄与できたと感じている。今後も、会場選びから工夫を凝らし、より多面的な表現を追求していきたい。

